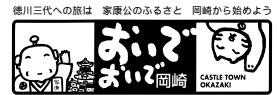


郷土色ゆたかな みやげ品が勢揃い！



おかざき観光みやげ推奨品カタログを発刊

本所では岡崎市と共催により、郷土色ゆたかで当市のみやげ品としてふさわしい「おかざき観光みやげ推奨品」の認定を行なっていますが、今般、認定されたみやげ品のPRのためカタログ(カラーパンフレット)を発刊いたしました。菓子・食品・民芸品・工芸品など99点の魅力あるみやげ品を石工業や八丁味噌・三河木綿などのミニコラムとともに紹介しています。

今後、会員のみなさまや市内観光関連施設をはじめ各地商工会議所などにカタログを配布し、NHK大河ドラマ「葵～徳川三代～」と東海道宿駅制400年(平成13年)に対応した“おいで おいで 岡崎”観光客誘致キャンペーンの一環として、観光事業の推進と地場産業の振興を図ります。



お問合せは
観光・国際・文化担当 53- 6190

岡崎市美術館催し情報

岡崎に残る遺産と歴史

「松平・徳川氏の寺社」

期 日 4月8日～6月4日
〔毎週月曜日は休館〕
午前10時～午後6時
〔入館は午後5時30分まで
但し6月は1時間延長〕
観覧料 一般 800円 小中学生 400円
主 催 岡崎市、NHK中部ブレイズ
問合せ 岡崎市美術館 28- 5000



「大樹寺惣絵図」東京国立博物館蔵
(岡崎市美術館提供)

春の岡崎観光イベント

桜まつり 4月1日～15日 於 岡崎公園

岡崎城天守閣を中心に咲き競う約2,000本の桜。その美しさはまるで名画を見ているようです。中でも、岡崎公園周辺と伊賀川一帯にライトアップされた夜桜風景は、東海一の名所となっています。

家康行列 4月9日 午後1時30分～3時

秀忠隊・家光隊も加わり、徳川三代が勢ぞろい

家康行列は、桜まつりの呼びものの行事です。午後1時30分に伊賀八幡宮から、家康を中心に、時代衣装を身にまとった武者など1,000余名が行列し、絢爛豪華な時代絵巻が繰り広げられます。乙川河川敷では、午後3時30分から模擬合戦「天下分け目の関ヶ原」が行なわれ、戦国時代を彷彿とさせます。

行程 伊賀八幡宮～康生通り～中伝馬～東岡崎～乙川河川敷

五万石藤まつり 4月23日～5月7日

岡崎市の花に選定されている「ふじ」が、岡崎城天守閣南側の乙川堤防沿、1,300㎡の藤棚に咲きほこります。

徳川三代をささえた三河武士 vol2

とりいもただ
鳥居元忠 (1539～1600)

鳥居氏は代々、矢作庄渡村(現岡崎市渡町)を根拠とし、矢作川渡河の利権を得ていたためか裕福で、元忠の父 忠吉は駿府に人質になっている竹千代(家康)に衣服や食料を送り続け、弘治2年(1556年)前年に元服した元信(家康)が駿府より墓参の名目で一時岡崎を訪れた際、蔵に貯えた金銭・武器・兵糧等を見せ、一朝の際の準備を怠らず、主君の帰還を待ちわびる譜代の三河武士の忍耐と忠誠を示したという話はよく知られます。

元忠はこの忠吉の三男として天文8年(1539年)渡村に生まれ、同20年より駿府にて人質暮らしの3歳年下の竹千代に仕え、少年時代より苦楽を共にします。永禄元年(1558年)の寺部城攻めを初陣に、以来、諸合戦で旗本先手の一方の将として常に先鋒を努め軍功をあげ、天正18年(1590年)家康の関東移封にともなって下総矢作で4万石を賜われます。

慶長5年(1600年)家康が会津征伐に東下する際、石田三成の挙兵に備え伏見城守備を命じられ、わずかな手勢で大阪方の大軍を引き受け、激戦の末、8月1日に討死しました。関ヶ原合戦の1ヶ月前のことです。

家康が会津へ出かける途中、伏見城にて元忠と酒を酌み交わし、今生の別れを惜しんだといわれます。

元忠の遺領は嫡男の忠政が継ぎ、10万石で陸奥磐城平に転封、元和8年(1622年)には出羽の国山形に2万石で移り、子孫は4回の移封の後、下野国壬生で明治維新を迎えました。



鳥居元忠画像